



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第402号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

命でつなぐ我孫子カリキュラム～高野山小・2年生 「災害に備えるには」

高野山小学校の2年生で、我孫子中学校区オリジナルカリキュラム「命でつなぐ我孫子カリキュラム」の一環として、学級活動「地震や津波から身を守る行動とは？」が行われました。前日の8日午後11時15分頃に青森県東方沖を震源とする震度6強の地震がありました。子供たちは「お母さんが教えてくれたよ。」や「ニュースでやってたね。」など、地震や津波について意識を高く持って学習に臨みました。

最初に、地震の被害に関する動画を視聴しました。阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の様子に「すごくこわいね。」「地面にひびが入っていくよ。」と驚きを隠せませんでした。

次に、地震が発生したときに考えられる危険と、自分の身を守る行動について考えました。学校にいるとき、通学途中、家で過ごしているとき、お店で買い物をしているときなど、場面を想定して考えました。

考えを発表する場面では、「家中では、冷蔵庫が倒れてくるかもしれないから、机やふとんにもぐればいいと思う。」や、「通学中に大きな地震が来たら、こども110番のおうちに助けてもらう。」など、今までの避難訓練で学んだことや、安全教育で学んできたことを結び付けながら、身を守る方法の考えが発表されました。「お店で買い物しているときは、買い物かごをかぶって頭を守る。」と発表があったときは、クラスのみんなから思わず感嘆の声が上がりいました。まずは自分の命は自分で守ること、そして学年が上がっていくにつれ周囲の安全に気を配れるようになるよう、系統的な安全学習を「命でつなぐ我孫子カリキュラム」が目指していることが感じられる学習でした。



つながる・広がる・支え合う～根戸小・5年「パラスポーツ・車いすバスケットボール」

根戸小5年生が総合的な学習の時間でパラアスリート等学校訪問事業を実施しました。本時は、パラアスリートの車いすバスケットボール選手、財満いずみ氏をお招きし、講演と実技体験の二本立てで行われました。

財満選手を拍手でお出迎えした後、体育館で車いすバスケを始められたきっかけから「しんどい時は上り坂」というコチーチからの一言を胸に辛い練習を乗り越え、東京パラリンピック出場、そして、更に自分自身を追い込み「まだ変われる。まだ変わりたい。」という思いをもって男子チームの埼玉ライオンズに入団した経験談を聴きました。財満選手のお話から自分の道を拓くのは自分で、その時々で自分で選択していくことの大切さを学びました。

体験では、車いすバスケの3on3と車いすリレーを行いました。バスケ体験では、ドリブル、車いすの操作、パスと様々なスキルが必要とされる試合で悪戦苦闘しながら、どの児童も時間いっぱいゴールを目指しました。周りの声援も後押しし、車いすバスケとリレーで体育館は熱気に包まれました。体験を経て、車いすスポーツの大変さを体感すると共に、面白さや楽しさも同時に体感することができました。



終わりに、児童たちからの質問コーナーに加えて、車いすバスケのプレーも実演して頂きました。体験後だったため、あんなに大変だったドリブル、そしてゴールが決まると体育館には「おー！」「すごい！」と拍手と共に歓声が上がりいました。貴重なパラスポーツの体験を経て、「つながる・広がる・支え合う」の久寺家中区福祉プログラムの発達段階に見合った学習であったと感じました。